

教育委員会会議録要旨(令和5年第9回)

定例会	日時	令和5年5月9(火) 午後1時30分
	場所	明石市役所分庁舎4階教育委員会室
出席者	委員	北條英幸 教育長 橘幸男 委員 柏木輝恵 委員 橋本彰則 委員 川本まり子 委員
	事務局	長田局長 田辺室長 北迫次長(指導担当) 新田次長(給食担当) 中田次長(明石商業高校福祉科準備担当)兼明石商業高校福祉科準備担当課長 西山総務担当課長 小島学校教育課長

## 次 第

### ○報告事項

1. 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
2. 第3期あかし教育プランにおける成果目標について
3. 令和5年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業について

### 開催

(北條教育長)

それでは、ただいまから、令和5年第9回定例会を開会します。

本日の署名委員は、川本委員をお願いします。

それでは、本日の審議を始めます。

本日は報告事項のみです。

まず、報告事項1「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価」について、説明をお願いします。

(西山課長)

報告事項「教育に関する事務の点検・評価」について、資料に基づきご説明いたします。

明石市教育委員会では、教育施策の改善を図るとともに、取組内容等を市民に説明するため、自ら点検評価を毎年行っております。

今回の点検評価の実施に当たりましては、前回の協議会でのご相談を踏まえまして、次の方針に基づいて進めさせていただきたいと考えております。

「1. 進め方の方針」として4点ございます。

まず、「(1)学識経験者の参画」につきましては、昨年度に引き続き、兵庫教育大学の川上教授に参画いただきます。

次に「(2)評価シートの見直し」につきましては、シートの作成区分を細分化することで記載の漏れを防ぐとともに、「成果指標以外の成果」という記載欄を新たに追加し、取組成果を多様な視点から評価していきます。

次に「(3)対面ヒアリング項目の絞り込み」ですが、対面ヒアリング項目を絞ることで、重点的な項目に十分な審議時間を確保しつつ、全体の協議時間が長くないようにしたいと考えております。

なお、対面ヒアリングの対象外とした項目につきましても、メール等で質問等いただきましたら、6/21 に実施する第2回ヒアリングの場で、質問とそれに対する回答をお示しする予定としています。

次に「(4)質問の事前通告」でございます。限られた時間で、より効果的にヒアリングを行うため、「重点的に質問したい項目」や「質問内容」につきまして、可能な範囲で事前通告をお願いします。

なお、事前通告がない場合でも当日質問は可能です。ただ、例年と変化がない安定的な取組内容で、特に事前通告がない項目については、出席者の簡素化を検討させていただきます。

2 ページをお願いします。

ヒアリングに係るスケジュールでございます。現在はヒアリング実施前のフェーズでして、5/2 に評価シートと事前質問通告の様式をお送りしております。

本日、「対面ヒアリング項目の絞り込み」を踏まえまして、当面は6/1 に実施します1回目の対面ヒアリング対象につきまして、質問したい項目等について、5/23 までに通告をお願いしたいと考えております。

また、ヒアリングでいただきたいご意見として、対面ヒアリング(6/1)の中の吹き出しに記載していますが、点検シートの記載で分かりにくい所のご指摘や、大局的な視点での取組方針等の是非、既存の取組についての改善提案などをいただければと思います。

なお、2回の対面ヒアリングの対象外とした項目につきましても、

メール等でご意見いただきましたら、6/21の第2回ヒアリングの際に、所管課からの回答意見をお示ししたいと考えています。

その後、6/22以降にメールでの確認を行い、7/25の定例会で最終版の報告書案を提示し、8/8の定例会で議決いただきたいと考えております。

続いて、3ページをお願いします。

この表には、方策名と主な取組、「案」とありますのは、事務局が絞った対面ヒアリング案で12項目を網掛けでもお示ししています。

一番右側の意見数の欄は、過去の点検評価の際、教育委員からご意見があり、報告書に掲載させていただいた意見の数です。本日この場でも項目追加のご意見をいただきたく、参考にお示ししています。

なお、網掛けで表示している事務局案について、事前にお送りした資料から一部項目変更しており、3項目を削除し、3項目を追加しています。

削除 「①方策5-1：計画的な生徒指導の充実と校則の見直し」

「②方策7-1：事務の効率化と学校行事、事務の精選」

「③方策7-2：改善事例の共有と全市的展開」

追加 「①方策4-2：正しい生活習慣への支援」

「②方策5-5：キャリア教育の支援」

「③方策8-1：学校の安全性の向上」

事務局案の12項目でしたら、1項目あたり20分と比較的余裕のある時間配分となり、項目の追加に対応できると考えておりますので、ご希望があればご意見いただきたいと思っております。

なお、川本委員からのご意見について、反映できておりませんので、この場でお配りさせていただきます。

本日いただいたご意見を踏まえまして、今週末までにヒアリング対象の絞り込みを行い、皆様にお伝えしたいと考えています。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などがありますでしょうか。

本日お配りする分も、ヒアリングの対象にするということですので、基本的に対面のヒアリングから除く分についてのほうが少なくなるということですね。

(西山課長)

「案」とご回答いただきました分を確認しますと、38項目のうちの21項目をヒアリング対象としたいというご希望をいただいております。現在、除く対象ですが、他の委員の方からこれはぜひとも対面でヒアリングしたいということであれば、追加で検討させていただきたいと思います。数が多くなってしまうと、時間配分の関係から、すべてお答えできるかはご相談になるかと思いますが、まずは、ご希望としてあるものは、いったんお聞かせいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(北條教育長)

除いている分を挙げていただけますか。

(三ノ浦係長)

「1-2 特別活動の充実」「2-2 ふるさと教育及び文化・芸術教育の推進」「2-5 教科横断的な学びと「ことばの力」を高める活動の充実」「3-2 子どもの読書活動の推進」「5-3 教育相談の推進」「6-1 カリキュラムマネジメントの実施と学校の組織力の強化」「6-2 地域・家庭・学校の連携と協働による社会に開かれた教育課程の実現」「6-5 少人数教育の推進」「6-7 放課後の子どもの居場所づくり」「7-2 改善事例の共有と全市的展開」「8-4 安全教育・防災教育」「9-3 家庭環境に応じた支援」になります。

(北條教育長)

この中からもご希望の項目がございましたらお願いします。

また、何かありましたらメール等でもご連絡いただければと思います。

次に、報告事項2「第3期あかし教育プランにおける成果目標」について、説明をお願いします。

(西山課長)

報告事項「第3期 あかし教育プランの成果目標」について、資料に基づきご説明いたします。

明石市教育委員会では、アクションプランに沿って、毎年、点検評価を行っております。これから、評価シートの確認や、対面ヒアリングなど、アクションプランの具体的な点検を進めるにあたり、上位計画である「あかし教育プラン」の長期の成果目標とその現状について報告いたします。

「1. あかし教育プランの成果指標」ですが、あかし教育プランでは、基本目標を実現するため、子どもが身につけるべき資質・能力・態度を「育む5つのちから」として整理しています。

そして、「育む5つのちから」の成長を測るための成果指標を設定しており、「第3期期間内の平均値」が「第2期期間内の平均値」を上回ることを目標としています。

続きまして2ページ、「各指標の現時点での達成状況」を一覧でお示ししています。

(1)~(5)にある「育む5つのちから」を測るための指標として、全国学力学習状況調査での全国一律の質問紙調査の回答の一部を指標に設定しています。

項目の一部に網掛け表示しているところがございますが、目標値を現時点で上回っている項目を網掛け表示しております。

長期計画である「あかし教育プラン」では、9年間の取組を通して

このすべての項目が目標を上回り、網掛けとなることを目指しています。

3 ページをお願いします。

先ほど一覧でお示した各項目について、過去どういう値であったかを経年でお示ししています。なお、2020 年度は新型コロナの影響により調査が実施されておられませんので、データはございません。

それではグラフの見方についてご説明します。

3 ページ一番上、「(1)－①自分には良いところがある」と答える児童生徒の割合をご覧ください。左グラフ小学生は 2018 年の 86.3%から右肩下がりで減少し、2022 年度は 78.8%となっており、目標値の 81.6%を下回っています。

一方、右グラフの中学生は 2019 年度の 75.4%を底にして回復傾向にあり、2022 年度は 77.8%、目標値 75.5%を上回っております。

なお、この表は左右のグラフの縦軸も揃えて作成しており、2018 年度では小学生のほうが 7.5%ほど高い数字を示しておりましたが、昨年度はその差が 1 ポイントまで迫ってきていることも伺えます。

それでは、特徴的な項目について何点か説明いたします。

4 ページの一番上「(1)－⑤自分の考えを発表する機会では、自分の考えがよく伝わるよう、資料や話の組立などを工夫して発表した」や、5 ページの上から 2 つ目「(4)－③話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」の項目については、小学生中学生の両方ともに目標を達成するとともに、中学生の伸びが大きくなっております。これは、総合的な学習の導入や、児童生徒が主体的に考えるアクティブラーニングの取組の成果だと考えており、特に中学生にその効果を強く実感してもらえているのではないかと考えておりま

す。

また、4 ページの一番下「(3)－③人の役に立つ人間になりたいと答える児童生徒の割合」は、小中ともに高い数値を保つ一方で、4 ページ上から 2 つ目の「将来の夢や目標を持っている」、5 ページ一番上「(3)－④地域や社会を良くするためになにをすべきか」といった項目は減少傾向にあることから、漠然とした社会貢献の思いはあるものの、具体的な夢や社会を良くするために何をすればいいかといったところでは具体的なイメージを持っていない様子も伺えます。

最後に、生活習慣に関連して、5 ページの一番下「(5)－①朝食を毎日食べている」や、6 ページの「(5)－③毎日同じくらいの時刻に起床している」の割合が低下しており、特に朝の時間に余裕がないご家庭が多い状況も伺えます。

以上、上位計画である「あかし教育プラン」の成果指標について、現状をご説明いたしました。これらの現状を踏まえたうえで、今後の点検評価のなかで、取組の確認や、新たな取組みの提案などいただければと思います。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありますか。

(橘委員)

1 ページの最後、「第 3 期期間内の平均値」が「第 2 期期間内の平均値」をすべての項目で上回ることを目標としています。」とあり、その下に「<目標イメージ>」がありますが、2022～2030 の 9 年間の平均値が、2016～2021 の 6 年間の平均値より高くなることを目指すということで、これは最終的な平均値なのか、それとも毎年この平均値を注意しながら見ていくということなのか、最終的な 2030 年度の目標としてこれがあるのか、そのあたりを教えてください。

(西山課長)

目標としましては、9年間の長期計画でございますので、計画終了時に検証する必要があると思っております、その時には、9年間で平均値を照合していく必要があると思っております。

ただ、その間、今年であれば1年が経過した段階であります、今の時点で数値を全く見なくてもよいとは考えておりませんので、現状をご説明させていただいたうえで、弱い項目については、数値を上げるためにこういった取り組みが必要ではないかというような視点で、参考指標として9年達成するまでは順に追って見ていく必要があると考えております。毎年必ず達成しなければいけないものとはとらえておりませんが、しっかり注視していく必要があると考えております。

(橘委員)

5ページにある「(4)－④学校に行くのは楽しい」とありますが、2021年度が低くて、2022年度が高くなっております。

以前、高等学校を担当していたとき、学年でいろいろな特色がありましたし、全国的に見ても、学年によって特徴が違ってくことは多いにあり得ると思います。そういうことがあるとすれば、非常に大きく変わっていると思います。そういうところを頭に置いておかないと、上がった下がったということの理由付けと言いますか、見方をしっかりと持っておかないといけなのではないかと感じました。

(北條教育長)

確かに、小学6年生がまた中学3年生になったときに同じアンケートがありますので、この数値がどうなっているのかということ注視していく必要があるのではないかとご指摘だと思います。

(柏木委員)

3ページの「(1)－①自分にはよいところがある」と「(1)－②先生は、あなたのよいところを見てくれている」については、両方とも大きく下がっているように見えますが、事務局としては、下がっている要因

はどういったところにあるとみているのか教えてください。

(小島課長)

この時期、コロナの関係で学校生活が非常に不自由であったということが挙げられると思いますが、小学6年生に関しましては、思春期の入り口であり、特にこの時期、マスクをしていて表情が見えないといったことが大きいと思います。ですので、相手の様子が分からないということも一因かと思いますが、ただ、コロナにすべて結びつけるというのも安易かと思いますが、このあたりが今後どのように変わっていくのかということを見ていかなければいけないと考えております。

(柏木委員)

一方で、5ページの「(4)－④学校に行くのは楽しい」で、2022年度は上がっているというところがあるので、学校そのものは楽しいが、自分によいところがあるという認識できないというところで、先生との表情が見えず、自分が認められているとは受け止められていないということがあるのかなと思います。

そこで言うと、今後、マスクの着用について、子ども達の声を知っているとマスクをすることが当たり前になって、外すのが恥ずかしい、顔を見られるのが嫌だと言っている子ども達が多いという状況を、どのように変えていくのかということについて、個人に任せますだけでよいのかという気がしますが、そのあたりはいかがでしょうか。

(小島課長)

マスクに関しましては、着用を求めないという形で学校に通知をしております。

まず、子ども達と一番接する教員がマスクをしていたら表情が見えませんので、そのあたりの教員の意識を少しずつ変えていってもらわないといけないと思います。

私どものほうから、教員に外しなさいとは言えませんが、やはり、子ども達のことを考えましたら、教師の表情で子ども達は様々なことを察しますので、そのあたりは伝えていきたいと考えております。

(川本委員)

学校の先生の表情は非常に大事で、保護者の方は外してほしいといった意見が多いと思います。

やはり、外してとは言いにくいものでしょうか。

(小島課長)

私どもから外してくださいとはなかなか言いにくいのですが、ただ、私も今、外しております。先日、中学校長会があり、今週末にも小学校長会がありますが、私も次長も外して話しをしております。やはり、表情を見るということは非常に大事ですので、私どもが外していくことで、わかっていただく方向で持っていきたいと思っております。

子ども達もマスクを外すことは不安だと思いますが、前に立つ教師が外していたら、子ども達も外してよいのかなというふうに安心感を与えますので、強制はできませんが、表情を見せるようにしていきたいと考えております。

(北條教育長)

次に、報告事項3「令和5年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業」について、説明をお願いします。

(小島課長)

「令和5年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業について」を報告いたします。

まず、「1 趣旨」をご覧ください。

1998年度（平成10年度）からスタートしました「トライやる・ウィーク」は、本年度で26年目になります。

本事業の趣旨は、学校を離れ生徒たちに時間的、空間的なゆとりを確保し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体

験を通して、豊かな感性や創造性など「心の教育」を実践すること、また、生徒が多様な社会体験活動を通じ、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、自律性を高めるなど、生徒の自分らしい生き方の実現を関係者が支援しながら「生きる力」の育成を図っていくことです。

「2 実施期間」「3 活動参加校数」「4 活動予定人数」をご覧ください。

昨年度同様、県下全校が「事業所等の受入先による1週間の社会体験活動をする」ことになっております。明石市におきましては、昨年度11月に「トライやる・ウィーク」を実施しましたが、中学校長会と協議し、本年度は6月実施としました。

6月5日（月）から6月9日（金）までの5日間、市内13中学校と明石養護学校中学部の生徒、合計2,507名（昨年2,491名）が体験活動を行う予定です。

「5 活動予定場所」をご覧ください。

活動分野別一覧にしております。農林水産体験、職場体験、文化芸術創作体験など様々な事業所で活動を行います。

「6 その他」をご覧ください。

昨年度は11月7日から11日、事業所での職場体験活動を5日間実施し、各校で工夫した社会体験活動が行われ、大久保中学校の生徒が「ドッグサロン テラサ」という事業所で活動している写真を載せております。

「7 今年度の教育委員会における「トライやる・ウィーク」推進事業の受入について」をご覧ください。

今年度も昨年度に引き続き、教育委員会で生徒を受け入れる予定で

す。活動内容を記載しておりますので、参考としてご覧ください。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありますでしょうか。

コロナのピーク時期は、受入事業所がなかなかないというお話 شد  
ったと思いますが、今年度はいかがでしょうか。

(小島課長)

今年度、受入をさらにして下さった事業所もございます。

コロナは関係ないのですが、生徒に人気があります警察署が、昨年  
度は11月に体験を行ったため、「海づくり大会」の警備の関係で受入  
ができませんでしたが、今年度は明石警察で受入をしてくださいま  
す。

あと、水産試験場も、今年度は受入をしていただいております。

コロナが2類から5類に変更となり、事業所も受入について見直し  
てくださってるところもございますし、学校でも事業所開拓を行って  
おりますので、なんとか生徒たちが活動できるように考えておりま  
す。

(川本委員)

何年か前までは、小学校での受入があったと思いますが、そこには  
無いように思います。

(小島課長)

こちらの資料は、県への報告の様式を載せておりますので、例えば、  
保育園や幼稚園、小学校といった書き方をしておりますが、生徒の  
中には、教育機関に行きたいという生徒も多くおりますので、受入を  
することになっております。

(北條教育長)

以上で本日の議事は全て終了いたしました。

以上をもちまして、第9回定例会を終了いたします。

(14:10 閉会)